

# 独島見学報告書

文責：金美正  
2013年11月30日

日時：2013年11月12～15日

同行者：崔鳳泰弁護士（11月13日のみ）

## はじめに。

この度は今年8月に島根を訪問した大邱弁護士会、平和使節団の崔弁護士の好意により、鬱陵島と独島を見学する機会を頂きました。2005年島根県による「竹島の日」の制定以後、韓国人の独島に対する関心度が高まっている中、小松社長の配慮とコマツコリアのメンバーのご協力により、貴重なチャンスを頂いたことに感謝いたします。

見学を経緯と様子を下記のようにまとめ報告させていただきます。

## 記

### 1. 経緯

韓国の国家公務員を対象に独島の領土主権理論及び独島探訪探検を通じ独島の過去・現在・未来について教育する独島アカデミーを運営している、独島の管轄自治体である鬱陵郡が、今年最後の会期に崔鳳泰弁護士を講師として招きました。

崔鳳泰弁護士から8月の島根訪問時にお世話になり、小松社長の独島への関心も高いので一緒に行かないかと招待をしてくださり、それに応じて見学することとなりました。

### 2. 独島アカデミー。

① 独島アカデミーは、国家公務員が自分の組織の団体として申請する。独島アカデミーの参加費について、韓国政府から一部支援をしてもらっている。

② 今回は第158期の会期であり、参加機関10箇所、教育人員156名

慶尚南道、慶尚北道、蔚山市、光洋市、忠清北道、忠清南道、清州市、中央政府の農村振興庁、環境部などほぼ全国からの参加

③ 日程

|     |                                                 |
|-----|-------------------------------------------------|
| 1日目 | 鬱陵島入島<br>入校式<br>名士講義（崔弁護士）<br>独島地質公園<br>ワークショップ |
| 2日目 | 鬱陵島→独島<br>独島見学後鬱陵島へ<br>鬱陵島見学                    |
| 3日目 | 海洋探訪<br>独島博物館・独島展望台<br>修了式                      |

### 3. 鬱陵郡の概要

- ① 位置：浦港から217キロ、船で4時間運航
- ② 面積：72平方キロ
- ③ 人口：1 万余
- ④ 産業：観光収入が最大（年間40万人到来、年間所得100億円）漁業と農業が観光の15%
- ⑤ 飛行場建設：2019年から軽飛行機が就航出来る飛行場建設法案が国会通過



鬱陵島の港口



独島展望台からの港と町



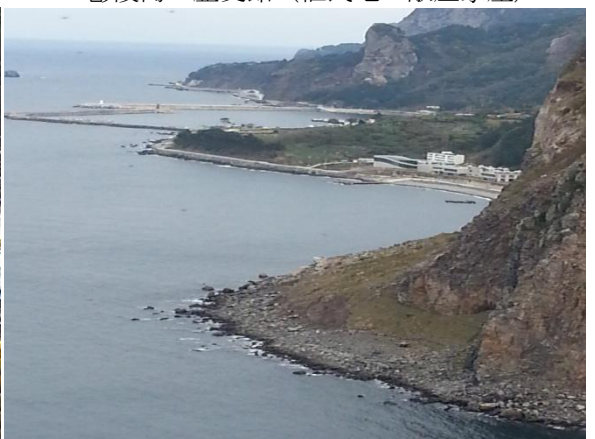
2階が泊まったホテル



鬱陵島の歴史館（植民地の敵産家屋）



いか取りの船



鬱陵島の海岸



遠くからの鬱陵島のパノラマ写真

#### 4. 独島の概要

- ① 位置：鬱陵島から87.4キロ、船で2時間運航
- ② 面積：18万平方メートル
- ③ 住民登録世帯人口（18世帯19名）
- ④ 常住人口：47名
- ⑤ 地形：火山噴出で生成された絶壁と岩礁で形成
- ⑥ 独島観光：環境保存と安全のため乗下船含み40分間滞在後帰船



独島入島成功



独島警備隊（その後は立ち入り禁止）



独島の東島



独島の西島



鬱陵島⇄独島間の船



船乗り場のと海の境い目

## 5. ジュックド（竹島）

- ① 鬱陵島から船で東へ20分距離
- ② 鬱陵島最大の付属島（日本でいう竹島とは違う島）で水平の平地がまるで海のドームのように見える
- ③ ツルニンジンや竹林が有名な無人島
- ④ 春は菜の花、秋はススキできれいになる。



安竜福記念館から見てジュックド



ジュックドから見た鬱陵島



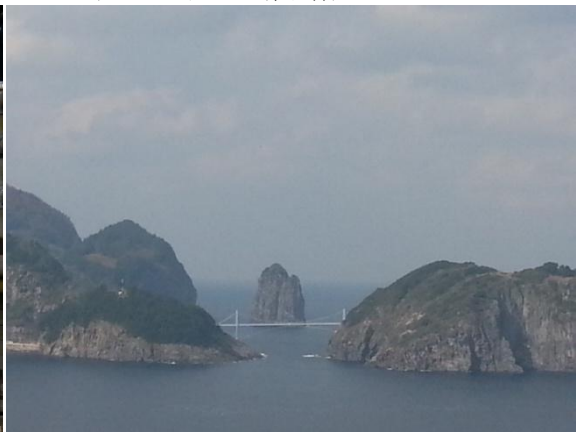
島中に竹林の散策路



船から下りて螺旋階段で登る



ジュックドの散策



橋で繋がった鬱陵島(左)と観音島 (右)

## 6. 安竜福について

1693年朝鮮の19代の王様の時代、鬱陵島と独島の操業の葛藤があった際、日本の米子の大谷家の漁夫により日本に拉致されたことがある人。

1696年に、鬱陵島と独島に入った日本の漁夫を追い出し、日本に行つて独島が朝鮮の領土であることを主張し、それを認めてもらつて帰つて来た。日本の江戸幕府は「竹島渡海禁止令」を発表するに至る。

彼の活躍は朝鮮王朝実録にも記述されている。



安竜福記念館



安竜福の祠堂



安竜福が日本に行く際乗った船(再現)

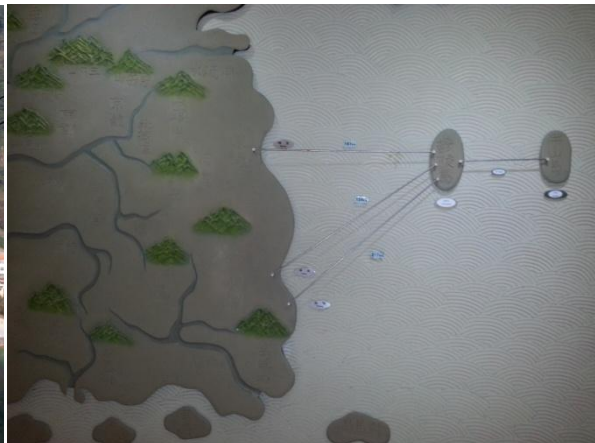


1967年朴正熙元前大統領からもらった漢詩

## 7. 独島博物館



ケーブルカーから見た独島博物館



館内の朝鮮時代の独島を含む地図



独島展望台

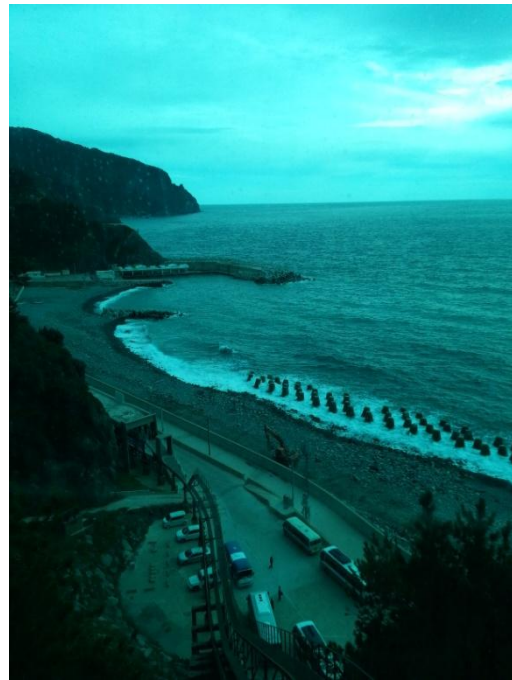


館内の独島模型

8. その他の鬱陵島の自然。



独島の付属島\_\_蠟燭岩



ロープウェーからの海岸



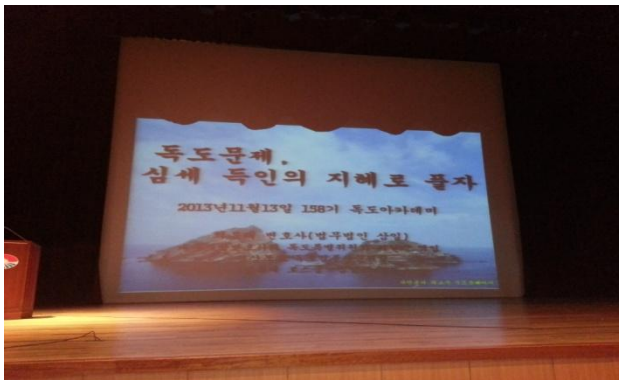
道路際の溶岩石の岩山



鬱陵島の灯台

## 9. 崔鳳泰弁護士の講演

- ① 講演のキーワード：審勢得人
- ② 審勢得人とは？



朝鮮19代王様の時代、鬱陵島・独島で日本の漁夫との衝突が相次ぐ状況の中、朝鮮時代の科挙試験でも独島関連問題が重要視され、独島関連問題が出された記録がある。慶尙北道の士族だった 申徳函（1656-1730）が残した文集に王様のに殿策形式の文章に鬱陵島独島関連内容があり、1693年に発生した 鬱陵島争界（安竜福がで漁労作業中に、日本に拉致された後に発生した挑戦と日本の領土紛争）に対し、科挙に応じた人に意見を求める分科の問題と推定する。

申徳函は、「国内から適任者を対策担当者に選定し、‘徳’を通じ日本内で不当な領土欲に反対する人を得て行こう」という意味で「審勢得人」の方法を提示した。

崔弁護士は、朝鮮の歴史にあったその言葉が現在でも通用するとし、その事例として小松社長との縁を紹介しました。

講演の内容は以下の通りです。

### タイトル：「独島問題・審勢得人の知恵で解決しよう」

#### 一、どうして韓・日間に独島問題が重要なのか？

現在、ヨーロッパでは国民主権国家を超える共同体が作られている。東アジアでも国民主権国家を超える共同体を作っていくのが東アジアで生きる市民の共通の課題である。しかしこのような共同体を作っていくためには、乗り越えなければならない課題が山積している。

特に、第2次世界大戦を起し、東アジアを戦争の舞台にした日本の戦犯勢力たちは第2次世界大戦後に始まった冷戦に便乗し、清算されないまま政治的主流として生き残り、その本質的な限界を持っているが故に、過去の侵略戦争を美化し、若い青少年に 彼らの世界観を詰め込み教育をするため、それが東アジア平和共同体を作り出すに足を引っ張っている。

日本が敗戦後民主主義社会に生まれ変わったのにもかかわらず、未清算された戦犯勢力により、日本の民主主義は構造的に脆弱性を見せてきた。それは内部的には半世紀以上の長期政権に、外部的には戦争被害者とその遺族の人権を無視する靖国問題を始めとして、東アジアの隣国に過去史の葛藤を招いた。しかし、このような外部的葛藤があっても、日本が繁栄できた要因が東西冷戦である。即ち、韓・米・日の軍事同盟が冷戦秩序の中で、東アジアに何よりも重要な圧倒的な変数として作用していたものである。冷戦構造の解体は、東アジアに新しい機会と同時に危険をもたらしたといえる。

このような状況で独島問題は韓日間の信頼を根本から破壊できる変数である。特に、日本の侵略戦争の美化勢力たちが独島問題を領土問題に限定して、日本の民主勢力を分裂し、韓日間の葛藤を高潮させ、日本極右勢力復活にまたとない材料と認識し、独島領有権の主張がだめもとと認識する限り、韓日間の真の信頼関係は勿論、東アジア平和共同体を作るに致命的な障害物と残るだろう。

特に、最近では日本の極右団体が東京の韓国大使館などに日本軍慰安婦被害者たちの平和像に対する仕返しとして、竹島記念碑を建てるといって韓日間の緊張が高まっている。日本軍慰安婦のような日本帝国侵略の象徴的被害者に対する、彼らの反人倫的態度は独島に対する彼らの主張がどれくらい戦争犯罪と密接な関連があるかを明らかに見せている。

本稿では、独島問題が葛藤から進歩し、韓日間の信頼構築に積極的に寄与しお互いがウィンウィンできる戦略をどのように立てるかを考えることにする。

## 二. 領土問題から民主主義の問題へ

日本で独島を日本と領土と主張する人は、日清戦争から1945年敗戦まで日本帝国が韓国領土を侵略した事実をろくに知らないか、それとも日帝の侵略を美化する人たちがほとんどであろう。このような方は、戦後に、日本帝国主義戦争随行勢力清算されないまま、正しい歴史教育をしていないから作られた人たちである。周知の通り、日本が始めて独島の対して自国の領土説の根拠に取り上げている中、一番明確なのが1905年無住地先占論である。日本は領土編入という方法で独島を侵奪した以後独島で生息するアシカを濫獲し、滅切させた。日本の敗戦で連合局は朝鮮半島を共に独島を続いて優先的に韓国の領土に措置しており、連合局の中で4韓国の実効的支配の対して問題を提起した国家は無かった。日本だけが由一異議提起を訳だが、これは侵略戦争に対する反省が無いから可能だった事。

独島は日清戦争よりも10年も後の日露戦争時日本が侵奪したという事実を明確にし、このような日本が独島に対して野心を見せるのは、日本の市民が、日本帝国の戦犯勢力に操縦されているということを認識することが問題解決の早道と見える。したがって、日本が独島を単純な領土問題として接近をするなら、我々はより大きな対応カードを持って対応しなければならない。日本が独島に対する挑発をするには、領土問題で損にならないゲームをしていると思うからだけど、決してそうではないということを認識させなければならない。

このカードは、韓国だけではなく、日本の良心的な市民の団結を強める役割が出来、国民主権国家を乗り越える信頼の共同体を作るものでなければならないし、全世界の良心的市民の支持を受ける事が出来るものであるべきだ。

即ち、韓日間に民主主義を促進・強化することでその解決策を模索しなければならない。

韓日間の民主主義を促進・強化して独島問題を解決しようということで、過去すでに（審勢得人）の秘策があった。

「審勢得人」の具体的に事例として、去る2013年6月26日、島根県議会では日本軍慰安婦被害問題に対する安部総理の認識を批判する請願書を議決した。これを契機に大邱地方弁護士会はこれを歓迎する

声明書を発表した。引き続き、大邱地方弁護士会弁護士会は、平和使節団を作り、日本軍慰安婦被害者と共に島根県議会を訪問する計画を立てた。

この過程で、議長から面談は困ると返答をもらって困っていたところ、島根県の主権者である市民たちから自分たちで訪日を歓迎するといって島根県を訪問した。その一連の過程に小松電機産業の小松昭夫社長の役割が大きかった。

それに関連した記事は、2013年8月30日(金)、嶺南日報の週末マガジンによく報道されている。8月23日～25日までの2泊3日間、現地の私服警察6人の密着警護を受けながら右翼との衝突なく帰ってきて、続いては、11月1日から3日まで大邱弁護士会の招待で島根県から大邱を訪れたことがある。

大邱滞在中、彼らは大邱の日本人村友鹿洞を訪問した。友鹿洞は、文禄慶長の役当時、加藤清正の部下として朝鮮を侵略することになったが、その戦争が名分のない戦争であることを認識し、朝鮮に投降して日本軍と戦った日本人さむらい・沙也可將軍の子孫が住んでいる町。

その町に韓日友好館があり、島根県からのお客がそこを訪問した。

時間がかかっても沙也可のような平和主義者、実践主義者をたくさん作り出すのが独島問題解決の近道であろう。

### 三．審勢得人の具体的な事例について

先日の報道にもあったように、韓日協定文書公開裁判過程重要な法令が見つかった。日本が1951年6月6日公布した‘総理府令24号’と同年2月13日公布した‘大蔵省令4号’である。

‘総理府令24号’は、日本が朝鮮総督府所有の財産を整理する過程で、‘過去植民地だった島’と‘現在日本の島’を区分する内容が入っているものであり、法令には、鬱陵島・独島及び済州島を日本の島ではないと明示している。特に、独島を済州島と一緒に併記して処理したことが意味があると思われる。上記法令は、日本帝国被害者が日本での裁判闘争を通じて公開されている文書の中、黒く塗りつぶれた部分の内容を探す家庭で明らかになったものである。このような法令でも分かるのに、日本が独島を日本の領土であると主張するのは、日本が自国の法令すら自ら無視して意地を張っていることである。日帝被害者の訴訟を支援した立場から見ると、日帝被害者たちが裁判過程を通じ手独島の真実を見つけたのはある意味では必縁の結果では無いかと思う。これを単なる法令の発見に止めるのではなく、日本が独島を自分の領土と主張することがどんなに韓日間の民主主義を毀損するかを見つめる努力に持っていかなければならない。日本内には、我々と連帯する市民や被害者がたくさんいるがゆえに、我々の戦いは必ず勝利すると思う。このような点から見て、現在韓日間の懸案となっている日本軍慰安婦問題は独島問題を解決する重要な秘策となる。日本大使館の前に20年の闘争の結果として立てられた平和碑を見ても反省せず、撤去を主張したり、それにたいした仕返しとして、竹島記念碑を建てるという人たちが清算されない限り韓日間には真の平和をやってこないだろう。

### 四．結論

結局、我々は、日本の民主主義の成熟に深い関心を持ち、これを活用して独島問題を解かなければならない。具体的に日帝侵略戦争の被害者たちの人権問題を韓日間の懸案とし、これを解決し

ていく過程の中で、日帝侵略主義・賛米勢力の蠢動を止め、独島が日本の領土であるという主張が間違えていることを日本内民主主義勢力によって自覚できるようにする戦略が最善ではないか？日本侵略美化製勢力が「だめもと」ではなく、それを主張するほど、「自分たちのアキレス腱が現れ破滅」に向かうという戦略を通じ、本当の韓日共助・東アジア平和共助の道へ、平和を愛する全世界の市民と一緒に一歩一歩歩んでいこう！